

都市計画学会中部支部 能登半島地震対応コアメンバー会議
能登半島地震エクスカージョン

日時：2024年6月16日（日） 8：00～18：20

視察場所：七尾市、志賀町、輪島市門前町黒島町、輪島市河井町（行程は図1参照）

参加人数：18名（レンタカー5台）

参加者：浅野純一郎、秀島栄三、鶴田佳子、益尾孝祐、三宅諭、今村洋一、川本義海、嶋田喜昭、土屋泰樹、加藤孝明、小浦久子、泉英明、坪井志朗、事務局（中野優、前田翼、川原志保）、愛知工業大学学生（岩淵、笠松）

能登半島地震の被災状況を確認するために、益尾先生（愛工大）にアテンドしていただき、石川県七尾市（一本杉通り、和倉温泉）、志賀町（赤崎漁港）、輪島市門前町（輪島市黒島地区重要伝統建造物群保存地区、鹿磯漁港）、輪島市河井町（地震による火災現場）を視察した。以下、各地の視察場所ごとに報告する。



図1 視察行程

金沢駅集合（8：00）

行程の説明及び資料配布

金沢駅出発（8：20）

○一本杉通り（9：35～10：00）

一本杉通りは、建物の被災状況として1階部分が倒壊している建物や道路のひび割れ、電信柱や灯籠の破損状況等が見て取れた（写真1）。また、外から見たら破損がみられない建物であっても、応急危険度判定で危険とされ、立ち入ることができない住宅が多くあった。なお、一本杉通りで復興のプロジェクトに取り組んでいる岡田翔太郎氏（岡田翔太郎建築デザイン事務所 代表）に同行していただき、被災状況に加え、なりわい再建支援補

助金等の状況についても解説頂いた（写真2）。



写真1 1階部分が倒壊している建物



写真2 岡本氏より説明を受けている様子

○和倉温泉（10：20-10：50）

和倉温泉では、和倉温泉内にある加賀屋は傾いている状態に加え、外壁に X 線状にひび割れしている状態が見て取れた（写真3）。また、道路や駐車場のひび割れや擁壁が倒壊している状態がそのまま残っており、和倉温泉として復興する際には一体的な修繕が必要であると感じた（写真4）。和倉温泉として再興するには、加賀屋のみでなく他の旅館と足並みをそろえる必要がある一方で、原状復帰するにはなりわい再建支援補助金では足りないため、どの程度ダウンゾーニングが必要か、温泉街として一体的にどこまで復興するかが重要であるとされている。



写真3 加賀屋の損害状況

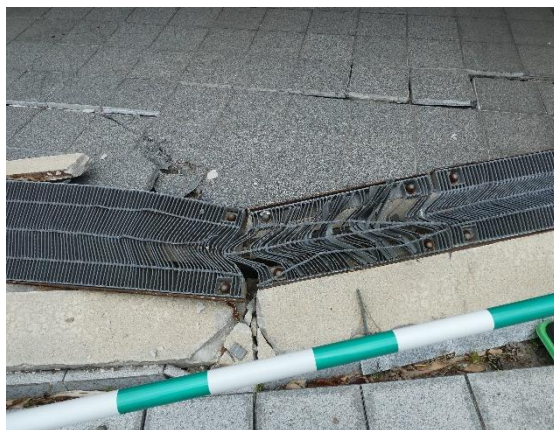


写真4 道路の破損状況

○赤崎漁港（11：50-12：00）

赤崎漁港は、地盤沈下・地盤隆起の影響は小さく、海面状況には影響は少ないものの、防波堤などの構造物にはひび割れや破損している状況を視察した（写真5）。また、赤崎漁村においても、外壁などの被災は多くは見られなかったが、実際に視察すると屋根にブルーシートがかかっている住宅は点在しており、被災の少ない地域であっても津波被害の影響があることが見て取れた（写真6）。



写真5 防波堤の被災状況



写真6 赤崎漁村の被災状況

○黒島漁港及び輪島市黒島地区重要伝統建造物群保存地区（12：25-13：25）

黒島漁港は、地盤隆起の影響で海底にあった岩が露出している状態となっている（写真7）。また、輪島市黒島地区重要伝統建造物群保存地区は、古い建物が密集しているため、倒壊している建物が多く、旧角海家住宅等の国指定重要文化財も倒壊している状況を視察した（写真8）。今後、重伝建地区として復興するとしても、今後の防災等の考え方や重要文化財の今後の在り方等についても検討することが重要である。



写真7 黒島漁港の地盤隆起の様子



写真8 旧角海家住宅（重要文化財）

○鹿磯漁港（13：30-13：45）

鹿磯漁港は地盤隆起の影響で、広い範囲で海面が露出しており、海岸線が大きく後退しているため、現状では船が港に接近できないようになっていた（写真9）。また、地盤隆起による港湾のひび割れや地面がズレている様子が見て取れた（写真10）。現状では船を港湾につけないため、漁港として復興するのか、復興する場合大規模に構造物を改修する必要があるため、今後の復興の仕方の検討が重要である。



写真9 海底が露出している様子



写真10 地盤隆起によるひび割れ

○輪島市河合町 (15:50-16:10)

火災被害のあった輪島市河合町では、火災現場となった地区を中心に、依然残っている燃え落ちた建物を視察した(写真11及び12)。広いエリアですべての建物が倒壊しており、悲惨な状況が見て取れた。また、火災被害のエリア外では車通りも多く、商店も開店しており、通常の生活をしている市民がみられた。



写真11 火災による倒壊した一面の様子
(その1)



写真12 火災による倒壊した一面の様子
(その2)

○金沢駅解散 (18:20)

(記録: 坪井志朗)